



シャボン玉、飛ばそ!!  
9月24日 永源寺スポーツフェスタ

「盛りだくさんのメニューで充実感200%」

# スポーツフェスタ

9月24日、気軽にスポーツを楽しんでいただこうと、永源寺スポーツフェスタが開催されました。これまでの大運動会に代わるイベントで、永源寺スポーツ協会などで構成する実行委員会が主催されました。

当日は天候にも恵まれ、モルックやネットでポンпой、ディスクッター9、ディスコンなどのニュースポーツやシャボン玉名人と遊ぼう、AED体験コーナーなど11か所のポイントが設けられ、体験型のスタンプラリー形式で進められました。各コーナーはたくさんの家族連れで賑わい、体育館、グラウンドは熱気にあふれた一日でした。



編・集・後・記

「鈴鹿10座」は平成27年に東近江市誕生10周年を記念して認定されました。「口ナ禍」になってから登山を始める方が増えています。私共もそのうちの一人です。近所の友人に声をかけ、現在5名で「山に登ろう会」を結成して、10座を踏破しようとしています。しかし全員が兼業農家なので、なかなか日程が合わず、また登山に気候のいい時期が、田植えと稲刈りに重なり、そうなるも夏の暑い日と冬の寒い日に登る事になるので、なかなか苦労しています。「登山とは下山した時に成り立つ」と言われます。道迷いや滑落に注意しながら登っていますが、迷ったと思ったら、前へ進まず引き返すのが鉄則です。現実に会のメンバーでの登山中にも、道に迷うことがありました。地図や目印を見ながら登っているのですが、どうしてもそついつケースに遭遇します。9月には県内の方が菅尾町の黒尾山に登山中、100m滑落して亡くなりました。アルプスの夏登山での遭難事故もほぼ毎日のように報道されていきました。私は8座を登りあと2座で踏破です。十分な登山装備、事前のルート確認は勿論の事、「100%遭難しない山はない」を肝に銘じて、低山といえども常に危険意識を持ちながら、琵琶湖と伊勢湾が同時に見られる頂上からの景色や歴史、植物観察を楽しみながらの山登りを楽しみたいと思います。(e-f)

こんにちは保健師です ⑱

「生活習慣の改善で  
認知症を遠ざけよう！」



記憶をつかさどる脳の「海馬」という部分へ酸素を届けるのは血液です。脳の血管を良い状態にして十分な酸素や栄養を届けることが認知症の予防につながります。

そのためには①食生活 ②運動習慣 ③口腔ケア ④禁煙 ⑤飲酒 ⑥睡眠 ⑦生活習慣の見直しが大切です。今回は②運動習慣についてお知らせします。

【運動習慣】

◆ウォーキングや筋肉トレーニングなどの適度な運動は認知症予防に役立ちます。

体調に注意しながら日常生活に無理のない運動習慣を取り入れましょう。

◆また炊事、洗濯、掃除、庭の手入れといった毎日の家事も運動効果が期待できます。

◆下記の運動も、歯みがきしながら日常生活に組み込んで、毎日取り組まれてはどうでしょう。

筋力を向上させるトレーニング

かかとおとし 20回×2セット程度  
①両足を軽く開いて、いすから少し離れて立ちます。両手で椅子の背をつかんで、かかとを高く上げます。  
②ひざを伸ばしたまま、打ち下ろすようにかかとを落します。

今回は【口腔ケア】【禁煙】についてお知らせします。

永源寺地域が登場する本・雑誌

永源寺図書館提供

『滋賀の石橋とマンポ』

～石造りの橋と隧道・地下水路トンネルめぐり～

森野秀三／著 森野勇二郎／編 サンライズ出版発行

神社の前でよく見かける石橋。滋賀県は特に石の太鼓橋が多い地域だそうで、多賀大社の太閤橋は滋賀県で一番古い橋として有名です。そして2番目に古いのは、東近江市上平木町にある日吉神社の神橋だそうです。

この本では、県内各地の石橋のほか、マンポあるいはマンポと呼ばれるトンネルのカラー写真が数多く掲載されています。マンポは地域毎に呼び名が異なっており、トンネル、隧道のほか農業用地下水路を指すこともあるのだそう。永源寺地区では相谷の熊原神社の石橋や、永源寺の大歌橋、黄和田町の金平マンポが紹介されています。

普段何気なく目にしている石橋の造形の違いと、その美しさに驚かされます。



ちょこっとバスでお出かけ！  
自動運転車両で奥永源寺を散策

永源寺コミュニティセンターでは、9月29日に「ちょこっとバス」に乗って奥永源寺へ出かけ、道の駅からは自動運転車両に乗車して、秋の山里を散策しました。

秋晴れの天気にも恵まれ、普段はなかなか乗る機会がない自動運転車両に乗車された皆さんは、心地よい秋風に吹かれ、楽しいひとときを過ごされていました。



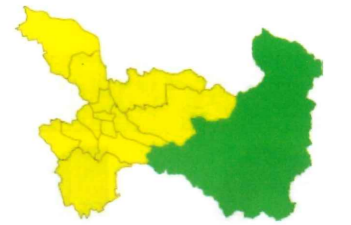
手作り田舎パンとにがりワイン

ヒトミワイナリー

地元のみなさまに支えられて30年  
これからも素朴なパンとワインを  
まじめに作り続けていきます。

滋賀県東近江市山上町2083  
TEL 0748-27-1707  
定休日 月曜・木曜日

まちの話題



甲津畑町自治会で救急救命講習  
AEDの基本操作や救命処置を学ぶ



甲津畑町自治会では、9月3日、救急救命講習会を自治会館で開催しました。

この講習会では、東近江行政組合消防本部から講師を迎え、AEDの基本操作や心肺停止時の救命処置の手順を学びました。参加者は3班に分かれ、人形を使ってのAED操作や、胸骨圧迫の実技を行いました。今回初めての取り組みでしたが、多くの方に体験していただき、地域の安心安全への意識づけや緊急時に備える良い機会となりました。

甲津畑町は、緊急車両が到着するまでに約20分かかる地域であるため、自治会ではAEDの導入を検討する方針です。(甲津畑町自治会から情報提供)

お盆に台風7号が直撃  
17日に延期の万灯祭、夜空を焦がす



8月15日に近畿地方を直撃した台風7号は、15日から17日にかけて鈴鹿山地の各観測点で1時間に30～40mmの雨量を記録しました。警報発令も長引きましたが、幸い東近江市では数か所の法面崩壊はあったものの、大きな被害はありませんでした。

この台風7号の影響で、毎年お盆の15日に実施されている市原野町の万灯祭は17日に延期され行われました。今年は数え年7歳の初たいまつや15歳のあがりたいまつもあり、午後9時ごろに大小10数個のたいまつが次々に堂屋敷に集まり、風に煽られた炎が夜空を焦がしていました。

歌やクイズで楽しく交流  
えがお部会が福祉施設を訪問



10月1日、まちづくり協議会えがお部会では初めての取り組みで、介護老人福祉施設もみじを訪問し、利用者の皆さんと歌やクイズで楽しく交流を深めました。

童謡や歌謡曲、替え歌を歌ったり、総理大臣は誰？や永源寺と言えば〇〇というクイズに「お茶」や「こんにゃく」など、すかさず答えが返ってきました。

ここ数年、コロナ感染拡大防止から交流ができませんでしたが、皆さんの素敵な声や笑顔に癒されました。「一回と言わんとまた来てや！」との声に、わたしたち部会員も心躍らせながら笑顔で応え、これからもお元気でお過ごしくださるようお願いながら施設を後にしました。

地域のかで校庭の奉仕作業  
市原小、永源寺中に続いて山上小で

地域の各種団体や住民による山上小学校グラウンドの除草作業が、9月13日に実施されました。

この事業は地域の子どもたちや学校を地域で見守っていきこうと、まちづくり協議会が中心となり、今年度から計画したもので、すでに市原小学校と永源寺中学校では実施済みです。

当日、参加者約45人は朝8時に草刈り機や鎌などを持参して小学校に集合。まだまだ暑さ厳しい中、約2時間かけてグラウンドや周辺を除草しました。

校長先生は「きれいになったグラウンドで思いっきり運動会が出来ます。感謝の気持ちを忘れないよう子どもたちにも伝えたい」と話しておられました。



# 来年(2024) 3月28日 山上小学校創立150周年迎える

# クローズアップ☆

山上小学校は、来年3月28日に創立150周年を迎えます。

明治7年(1874)、現在の山上町2組の旧湖東信用金庫付近にあった旧山上県元学校所跡に開進学校(のち日就学校に改称)を開いたのが始まりです。

就学率は、開校2年目で男子80%、女子41%と全国平均を上回り、教育への意識の高さが伺われます。

明治16年頃には、大旱魃で閉校の危機となり、教員の減給で乗り切っています。

明治19年に学制改正により尋常科山上小学校に、同25年



「山上小学校創立 150 周年」の横断幕を設置



明治 39 年に現在の地に建てられた校舎

に山上尋常小学校となりました。

明治39年(1906)に現在の旧山田城跡に2階建ての校舎が新築され、昭和38年(1963)には、鉄筋コンクリート製の2代目校舎が、平成18年には、木材が多く使われた現在の校舎となりました。

150年の歩みには、災害や戦争、ダムに水没等厳しい歴史もありましたが、どんな時代にも子どもたちへの教育にかけると地域の熱い思いを感しました。

(加藤紳一朗)

『永源寺町史通史編』により作成

## 山上小学校の変遷

明治7年(1874)	明治19年(1886)	明治25年(1892)	明治29年(1896)	昭和16年(1941)	昭和22年(1947)	昭和30年(1955)	平成17年(2005)
明治5年学制発布	学制改正により改称			国民学校令を公布	学校教育法を公布	町村合併	市町村合併
開新学校	尋常科山上小学校	山上尋常小学校	山上尋常高等小学校	山上国民学校	山上小学校	永源寺町立山上小学校	東近江市立山上小学校
明治8年に日就学校と改称。同11年藩主邸跡地に移転			高等科併置により改称 明治39年、現在地に校舎完成	昭和16年、和南分教場編入。昭和18年、永源寺村成立により相谷分教場、佐目分教場、九居瀬分教場を編入。同年、高野国民学校を併合		昭和39年、九居瀬分教場を統合 昭和44年、和南分教場統合 昭和46年、佐目分教場統合 昭和56年、相谷分教場統合	平成21年、政所小学校統合 平成23年、甲津畑小学校統合
						昭和38年、校舎完成 平成16年、校舎完成	



旅の始まりは エイタクから  
エイタク観光バス・エイタク旅行企画  
旅行、バス、タクシー何なりとご用命ください TEL 0748-27-1151

## 楽しくイキイキ健康に！ いち、にの、さん！けん玉で全身運動



けん玉を使ってバランス感覚を養う



級や段に合わせた技に挑戦



認定証を手にする参加者

この日は、日本けん玉協会県支部長の福井光代さんの指導を受け、けん玉を使った全身運動を行いました。

参加者は、懐かしいけん玉を手で、身体を中心に構えた後、正しい持ち方や膝の屈伸を使い



指導者の福井光代さん

「いちにのさん」で玉を乗せたり、各級段に応じた技に挑戦しました。

約2時間の講座で、けん玉道10級から8級を獲得され、認定証を手に入れた参加者は、姿勢やコツ、持ち方を教えて頂いて楽しく出来ました」と皆さん大満足でした。

「半径1メートルのダイエツト」と話す福井さんによると、「全身運動はもちろん、リズムに合わせて身体を動かすことで脳機能の活性化や認知症予防にもなるので、けん玉を身近に置いて、木の感触を楽しみながら手軽に楽しく遊んでください」と話されていました。

## 大本山永源寺でセミナー 禅宗とお茶の文化で インバウンド観光を

9月10日、大本山永源寺で『永源寺エリアのお茶づくり文化の深化とインバウンド受入れ先進セミナー』が行われました。

このセミナーは、観光庁のインバウンド観光コンテンツ造成支援事業の採択を受け、禅宗寺院とお茶のつながりや観光プログラムの仕組みを探ろうと行われました。



禅宗とお茶の関係を分かりやすく解説する館さん

セミナーでは、駒澤大学専任講師で曹洞宗龍音寺の住職、館隆志さんの「永源寺のお茶のルーツを学ぶ」や禅宗寺院とお茶との講演があり、館さんは、「禅宗の広まりとともに喫茶文化が中国全土に広まった。鎌倉時代に抹茶が、江戸時代に煎茶が、禅宗の伝来とともに日本に入り、喫茶文化が現代に受け継がれている。中国では抹茶文化は普及せず日本にだけ残っている貴重な文化である」と強調されていました。

第2部では、京都府和束町の細井農園の細井堅太さんから「お茶づくりとインバウンド観光の受入れについてのお話」があり、「茶畑の風景がSNSなどで取り上げられ、観光客が増えている。企画力と発信力は欠かせない」との事例が報告され、参加された40人の方は熱心に聞いておられました。

# 戦後78年 平和の尊さ 語り継ぐ

## 日章旗遺族の元へ

フィリピン・レイテ島で戦死  
高野の門阪庄平さん

太平洋戦争のさなか、フィリピンのレイテ島で戦死された門阪庄平さん（永源寺高野町）の遺品の日章旗が米国で見つかり、終戦から78年振りに遺族の元に返りました。

これは、戦没者の遺品返還活動に取り組む米国の非営利団体「OBONソサエティ」の協力で県遺族会などを通じて返還されたものです。

返還式は、去る8月26日、大津市の県立体育館で開催された「平和祈念滋賀県戦没者追悼式」終了後に行われました。

県内各地から参列した620人が見守る中、三日月大造知事から弟の門阪李平さんに手渡されました。

三日月知事は、「長年の月日が経ちましたが、敵味方の恩讐を越えて遺品を遺族のもとに返すことはできない。戦争を起してはいけない、命を守ろう、



兄の門阪庄平さん遺品である日章旗を手にする門阪李平さんと、李平さんの娘の富美子さん

長として従軍し、レイテ島の守備に就き、1944年10月に上陸した米軍との戦闘でほぼ全滅。10月21日に戦死したと記されています。日章旗は米国の兵士が母国に持ち帰ったものとみられます。

「祈 武運長久 門阪庄平君」と大きく書かれ、何十人も友人の名前がびっしりと寄せ書きされた旗は、故郷を離れてからおよそ80年の時を経て布が裂けたり穴が開いたりしています。

弟の李平さん（93歳）は、「兄が出征する日の朝、氏神様の高野神社に集落から100人以上が集まりお見送りしてくださいました。その時に武運長久を祈った寄せ書きの日章旗が親族と友人たちからそれぞれ贈られ、兄はそれを両肩からたすき掛けにし、当時歌われていた軍歌『海行（ゆ）かば』の歌詞「海行かば 水漬（つ）く屍（か）ね（か）山行かば草生（む）す屍（か）君の辺にこそ死なぬ かへり見はせじ」と言った後に『弾に死んでも病には決して死なぬ覚悟で行って参ります』と挨拶で力強く誓ったことばが昨日のよう

平和を守ろうという心を広めていきたいです」と述べられ、県議会の奥村芳正議長は「二度と戦禍に赴くことがないようにしなければならぬ」と決意を新たにされた。また、小椋正清東近江市長は「本当の意味での恒久平和を実現しなければならぬ」と改めて感じました」と語られました。

返還式の最後に、県遺族会相談役でOBONソサエティのサポーターを務め、戦争遺留品の返還に尽力している國松善次元知事は、「この旗は生々しい戦場を見て帰ってきた。無言だが次の世代に戦争はやってはいけないということを書いてほしい」と語っていると思つ」と述べ、戦争遺留品返還活動への協力に謝辞を述べられました。

滋賀県遺族会によると、門阪庄平さんは、21歳で出征。配属された陸軍歩兵第20連隊で兵



門阪庄平さん出征の日、家族や親戚とともに

兄の遺品と呼べるものはないに思い出されます。戦死の日が刻まれた位牌だけです。多くの皆様のお骨折りによりました兄の分身とも言える日章旗を手に、今やっと終戦を迎えられたような感激でいっぱいです。

兄は5人兄弟の長男で私と8歳離れています。父に叱られた私を慰めてくれる優しい兄でした」と振り返り「このような悲惨な戦争が二度と起きないよう後世に語り継いで行くことが私の使命であると理解しているところですよ」と話されました。

### 小学2年の悲しい出来事 悲惨な戦争を語り継ぎたい



永源寺地区戦没者遺族会支部長 久田政男さん

昭和20年7月30日、暑い夏の日、悲しい出来事は、78年経っても忘れることはできません。米軍の戦闘機グラマンの機銃掃射により、石谷で家に駆け戻り布団に潜り込んだ級友の

久司くんも弟の兄弟が、両親の目の前で犠牲になりました。おばあさんが「はよう逃げよう！」と、子どもらに叫んだと言われます。今も壁には機銃弾の跡が残っています。わたしは、空襲警報が出て近くの防空壕に入っていました。あの機銃掃射の「バリバリ」とした音は、今もはっきり覚えています。小学2年生のときです。翌日、お葬式に参列して、友だちの突然の死を実感しました。弔辞を読んだ宮川くんは、「米英の憎い仇は、どんなことをしてもとってみせる」でした。子ども2人を亡くした両親の無念さは、今も計り知れません。

わたしの父は34歳のとき出征し、戦地宮古島で負傷して昭和20年のクリスマススの日に復員してきました。俊足で相撲も強いスポーツマンであったと聞いています。復員後は、祖母や母の懸命な看護もむなし、僅か4か月足らずで亡くなりました。悲惨な戦地での経験が心を蝕んだ結果ともいえます。

ロシアのプーチン政権によるウクライナ侵略が始まり忌まわしい現地の状況が映像で伝えられています。わたしたちが経験した大東亜戦争からすでに78年が経過し、国民の9割が戦争を知らない世代です。今日唯一、日本だけが平和と繁栄、安心・安全が守られている国といえます。これはまさに、特攻として若い尊い命を国に捧げられた多くの人々の犠牲のうえに築かれているという事実を決して忘れてはならないと思つています。大地と人を焼き尽くした先の大戦は、大きな悲しみと怒りを残し、その痛ましい記憶は今も胸に焼き付いて離れません。

戦争の罪悪と戦争が残した悲惨さ、そして「戦争は絶対にやってはいけない」ということを若い世代の方々に語り継いでいきたいと思つています。



セメントで隠した弾丸跡（石谷町）



石谷町の殉国碑。戦没された方々とともに、山田久司、忠雄兄弟の名も刻まれている